

令和5年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業



令和5年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業(主催=日本武道館、日本相撲連盟、日本武道協議会、後援=スポーツ庁、協力=都留市立都留第二中学校)が令和5年11月1日(水)、都留市立都留第二中学校にて研究者5名、連盟事務局1名が出席して実施された。

本研究事業は、完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、学習指導要領に準拠し、年間8~10時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる武道授業(相撲)指導法の研究会を実施するもので、今回は、特に男女共習の授業視察を行った。

■開講式

開講式では主催者として、安井和男日本相撲連盟副会長と和田健日本武道館振興課長が挨拶を述べた。

■研究協議①②

開講式終了後、研究協議を行い、授業視察における観察の視点を確認した。「ネガティブな視点も時に大切になるので、悪い面も思い切って記録してほしい。その点を授業後に担当教諭に確認することで現場の事情を聴くことができる」「授業内容に加えて用具や環境、また授業の大きな特徴はグラウンドで行っているという点なので特に安全面に注目したい」といった意見が出た。授業担当の廣瀬理奈教諭からは、相撲授業について全体のねらいは「基本技の習得を目指し相撲の楽しさを知る」ことであり、全11時間のうちの10時間目にあたる本時のねらいは「土俵際に追い込まれたときに必要な

技術が何かわかる」ことだと説明があった。

■授業視察

その後、グラウンドに移動し、第2学年全96名で行う授業を視察した。

授業開始前、グラウンドに来た生徒たちは同校に100枚用意されている相撲パンツを各自が身に着けて授業準備をした。授業は、前回までの授業の復習から始まり、班ごとに分かれて準備運動を行った。その後、「土俵際に追い込まれたときに必要な技術が何かわかる」という本時のねらいに沿って、土俵際に組んだ状態から取組を始め、どのように力を入れたら強く踏ん張れるか、相手を押し出せるかなどを確認した。また、班ごとに用意されているタブレット端末で動画を撮影し、映像で振り返りながら互いに意見を交換する様子も見られた。

授業の最後に、振り返りシートを記入して授業は終了した。

■研究協議③

授業視察の振り返りを含めた研究協議を行った。研究者からは、「一つの正解を見つけるわけではない授業に生徒が慣れていて、次回以降にもつなげやすそうでよい」といった意見が出された。「蹲踞の姿勢から押し合い相撲をしていたが、それによって衝撃が少なくなり安全確保の面で有効だと思う」という意見に対して、廣瀬教諭から「生徒たちは立ち合いに興味があるようなので、それに近付けるために今年から、蹲踞の姿勢ではじめるようになった」と説明があった。



相撲パンツを着用する生徒たち



準備運動で四股を踏む



撮影した動画を見て話し合う



授業の最後に振り返りシートを記入

また、「土の上で授業をすることや、石が転がる地面の上で裸足になることについて保護者から反対はなかったか」という研究者からの質問に、廣瀬教諭は「昨年授業を行っている様子を生徒たちは見ていたので、今年は反対はなかった。裸足についても、自分の動きが悪くな

るようであれば靴下を履いても構わない、と生徒には伝えている」と答えた。

■閉講式

閉講式では安井副会長と、研究者を代表して桑森真介研究者が挨拶を行い、研究事業の全てを終了した。

担当教諭 廣瀬 理奈 教諭 より

本校へ赴任して2年目になります。生徒の実態を一言で表すと「元気がありすぎる」でしょうか。運動能力は決して低くないので、言葉がけに気を付けたり、ポイントを絞って話すことを意識しています。子どもたちの声を吸い上げて出てきた意見を採用しながら進めてきました。

私も相撲は専門外なので、分からないことがあれば生徒に相談して、生徒と一緒に授業を作り上げています。社会に出てからの共生の考え方を説明したうえで生徒に相談したところ、生徒から「男女でお互いに組むところまでできる」という意見が出てきました。そこで今年度の新たな試みとして男女のペアでの学習を導入しました。

授業では毎時間課題を提示して、授業中に生徒自身が見つけた答えを全員でシェアしています。こちらから教えてしまうこともできますが、自分たちで答えを見つけようと積極的に課題に取り組んでくれています。授業のたびに、生徒たちの気づきには驚かされています。「相撲を教える」ことよりも「相撲で何を教えるか」を意識して指導しています。



初めて授業に相撲を取り入れたときには生徒たちの中にある、体の大きな人がやるもの、というイメージから拒絶反応もありました。実際に経験してみても、楽しいと感じたとき、生徒たちの固定概念が崩れて意識が変わったことを感じました。

安全が確保されてこそ授業は成り立つものだと思います。安全で楽しい相撲授業をこれからも生徒たちと作り上げていきたいです。

